

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 養鶏試験場
所管グループ 研究開発グループ

| 整理番号 | 施策目標等 | | 試験・研究課題名 | 研究目的 | 研究概要 | 試験研究始期・終期 | | 評価結果 | 理由 | 外部評価アドバイザー意見 |
|------|----------------------------|---|---|--|---|-----------|----|------|--|---|
| | 施策目標 | 研究課題分類 | | | | 始期 | 終期 | | | |
| 1 | 多彩な農業の展開 | 鶏の能力検定推進事業 | 鶏の能力検定推進事業 | 当場が保有する系統同士をかけあわせていくつかの実用候補種について基本能力の調査・検定を行い、その中で、実用鶏の産卵能力より優れた実用候補種・交配様式を探索する。 | 実用候補種の種類となるそれぞれ異なる特徴を持つ系統3種類の産卵性能等を調査した。さらに、これら系統同士をかけあわせて組合せの実用候補種について、産卵性・卵質・産肉性などを調査項目とした能力検定を実施した。 | 13 | 17 | B | 次期実用鶏の交配様式の探索等のため、所要の検定を実施し、現在の実用鶏及び実用候補種の能力把握や比較検討等を行った。 | 非常に貴重な研究成果を得たと考える。 |
| 2 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 優良卵用鶏選抜試験 | 優良卵用鶏選抜試験 | 付加価値を与える形質として卵黄重に着目し、褐色卵生産鶏であるロードアイランドレッド種において、その遺伝的特性を解明する。また、推定された遺伝的パラメータを用いた指数式選抜により、高卵黄重生産系統の造成を行う。 | 当場保有のロードアイランドレッド種において推定した卵黄重等の選抜指数式および独立淘汰の併用により、高卵黄重生産系統の造成を行った。 | 13 | 17 | B | 卵黄重の効率の改良に必要なロード種における遺伝的特性値を推定するとともに、高卵黄重生産系統を造成した。 | 長い期間、安定した価格で供給されている卵。ほとんど値動きがありません。生産者にとって魅力ある経営が進められるような、また消費者に好まれる食品の提供のできる鶏系統が開発されました。 |
| 3 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 優良肉用鶏選抜試験 | 優良肉用鶏選抜試験 | 高品質肉用鶏の雌種鶏として用いているロードアイランドレッド種の鶏肉中のうま味成分に関する遺伝的特性を解明するとともに、明らかにした遺伝的パラメータを用いて種鶏の改良を行う。 | 鶏肉中の遊離グルタミン酸とイノシン酸含量は変動が大きく、信頼のできる遺伝率が得られず、うまみ成分による選抜はできなかったが、並行して行った種鶏の組合せ試験において次世代ロードアイランドレッド種の新たな系統を造成した。(P13系統) | 13 | 17 | B | 鶏肉中の旨み成分は遺伝的要因より飼養管理面でのコントロールが実用的であることが示されたとともに、旨み成分の分析・測定について、従来法より簡易かつ低コストな分析方法が確立できた。 | 鶏肉中のうまみ成分は遺伝的要因より、飼養管理面でのコントロールが実用的であるという生産者技術管理の試験成果が得られました。生産者の経営のために、また県民のニーズに応えるために管理技術の研究を期待します。 |
| 4 | 先端技術を利用した高度な技術の開発 | 鶏初期胚操作技術 | キメラ鶏後代検定 | 凍結胚細胞を用いて作出した体細胞キメラ鶏を白色レグホン種と交配し、得られた雛の羽装を確認することにより、キメラ鶏の生殖細胞キメラ率を推定する。 | 純系会津地鶏の凍結胚細胞を白色レグホン種の胚盤中央へ移植しふ化した雛は、羽装により体細胞キメラであったが、生殖細胞キメラを確認するため、白色レグホン種との後代検定を実施した。 | 15 | 17 | B | 生殖系列キメラ鶏を介しての凍結胚細胞からの個体の再構築は可能である。 | 非常に貴重な研究成果を得たと考える。 |
| 5 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 地鶏の生産・流通に関する試験 | 基本能力調査 | 当場作出のコマーシャル鶏、ふくしま赤しゃも及び会津地鶏の基本能力を調査することで、確かな品質の地鶏を生産し、普及拡大を図る。 | 基本能力(発育成績、解体成績)を調査する。 | 13 | 17 | A | コマーシャル鶏の基本能力は維持されていることを確認した。'会津地鶏'及び'ふくしま赤しゃも'のコマーシャル鶏譲渡羽数は増加している。 | 非常に貴重な研究成果を得たと考える。 |
| 6 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 地鶏の生産・流通に関する試験 | 効率的生産マニュアルの作成 | 地域未利用資源を活用して地鶏の生産コスト低減と付加価値の向上を図る。 抗生物質を含まない飼料による飼育法を検討する。 | くず米およびソバ製粉粕を市販配合飼料に添 加して低コスト化を図るための飼料給与体系を検討した。 無薬飼育をめざした飼養管理を検討した | 13 | 17 | B | 生産現場で参考となる種々の個別技術を提示できた。 | 非常に貴重な研究成果を得たと考える。 |
| 7 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 地鶏の生産・流通に関する試験 | 地鶏肉の流通・保存技術の開発 | 地鶏は小規模経営が多く通年生産が難しく冷凍での流通・保存の事例が多いが、冷凍後一昼夜経過しても中心部は冷凍されないなど品質管理に問題があった。そこで、急速冷凍に近い冷凍技術を開発し、地鶏肉の高品質化に資する。 | 急速冷凍機での冷凍は経費等から難しいので、通常の冷凍庫を使い、容器の違い・庫内の空気流動の有無等を比較し、急速冷凍に近い冷凍方法を開発する。 | 14 | 17 | B | 冷凍庫内に送風装置を設置し、冷凍するものの梱包サイズ等を考慮することにより、急速冷凍機と同等の性能が得られることが確認できた。 | 評価は適当と思います。 |
| 8 | 多彩な農業の展開・先端技術を利用した高度な技術の開発 | 鶏卵の生産流通における実態調査を基礎としたサルモネラ汚染防止技術とHACCP導入技術の検討 | 鶏卵の生産流通における実態調査を基礎としたサルモネラ汚染防止技術とHACCP導入技術の検討 | 中小規模採卵鶏農場における有効かつ実質的な安全性確保の方法を検討し、低コストHACCP生産方式の導入を試みる。 | 実態調査で中小規模養鶏における衛生面の課題を明らかにした上で、実際的なサルモネラ等の対策および簡易衛生診断手法を検討した。 | 13 | 17 | A | ・中小規模養鶏農場の衛生面の課題を明確化した。 ・集卵トレイ、コンテナの消毒方法を確立した。 | 洗浄の具体的手法、使用方法も含めて提示しないと、効果の判定は難しいのではないかと。 |
| 9 | 家畜排泄物の適正処理の推進・多彩な農業の展開 | 鶏糞の資源循環型利用技術の開発 | 鶏糞の資源循環型利用技術の開発 | (1)鶏糞発酵処理施設から発生する悪臭を簡易 低コスト施設により除去する方法を開発する (2)低コストで耕種部門のニーズに合致した完 熟堆肥化のための発酵槽を開発する。 | (1)場内の鶏糞攪拌処理施設より発生する悪臭を吸着除去する「水洗」及び「脱臭槽」施設を製作し、脱臭資材およびその使用方法を検討した。 (2)木製コンバネ資材等を使って発酵槽を自力製作し、省力的攪拌・発酵方法、排出方法を検討した。 | 13 | 17 | C | 脱臭剤としてロックワール及び腐葉土の効果が確認できた。発酵槽からの排出に移動式スクルーコンベアを開発した。 | 非常に貴重な研究成果を得たと考える。今後、より総合的な畜産廃棄物の悪臭対策、利用対策の研究が求められると考える。 |